



第 123 号

発 行 者
東筑摩塩尻教育会
編 集 者
会誌会報委員会

いぶがハル

東筑摩塩尻教育会長 塩原 義郎



「こどもごころ」は私のテーマです。身近な子どもたちの喜怒哀楽に満ちた表情や言動に接するたびに、私の心が共鳴します。何気ない素振りや子どもらしい言葉にも、思わず相好を崩してしまいます。子どもが好きでこの仕事に就いたからには、「こどもごころ」に共感できる自らの心の持ち方を、いくつになっても

維持したいものだと思います。

次の短歌は、そんな「こどもごころ」を詠んだものです。

一年生

ぼくはもうなみだくんはやめるんだ お
もらしジャーにもへんしんしない

二年生

にちようびチビまるががすき でもあの
ねおわたあとがさびしくなるの

四年生

ないしよだよきらいじやないよおせつき
よう いやなさんすうみじかくなるもの

五年生

あいつつてどんなときでもたのしそ
う なみだぬぐってほほえんでいる

三年生

ふきげんでんばがびりりおかあさん

ぼくのころがぎゅうんとちぢむ

六年生

ほめられたじまんのソプラノかえるごえ
ひつかりかえるおんちのかえる

一年生

よしやった おれもおまえもあかだから
めっちゃがんばってぜったいかとうな

五年生

デザートをさいごにちよこちよこたべる
やつ なんかいっしょにあそびたくねえ

四年生

せんせいは はしつちやだめというけれ
どあるくとむずるぼくのりょうあし

六年生

たろうくんおれはとめないおもうだけ
おこられるってわかつてるのに

二年生

先生はこわい？やさしい？おもしろい？
みんなまぎった先生がいい

三年生

ねえせんせ どっかにいってほんとな
のなみだがでもえがおでおくるね

子どもは、大人とのやりとりの中で常識や処世術を身につけます。その瞬間がまた面白いのです。私が二年生の担任の時の学級だよりです。

九月二日(火)

「この脱ぎっぱなしのくつ、片付けて」「わかった」「(ムツ)……」

「これ、うちに持っていくんだよ」「わかつてる」「(カチン)……」

「明日は運動着を忘れないで」

「わかつてるよオ」「(プチッ!)」。

言った子どもは違うが、こういう生意気な言葉を今日三回聞いた。私の息子もときどき「わかった」などと言うので、「おまえ、学校で先生に向かって『わかった』なんて言ってるんじゃないだろうな。目上の人への返事は『はい』だ。わかったか!」と叱りつけたら、殊勝に「はい」と答えた。今日も二つ目までは我慢したが「わかつてるよオ」だけはさすがに雷が落ちた。

三月四日(木)

のぞみさんがお出かけを言うと「どこに行くの」と聞いたが、本人は知らないらしい。お姉ちゃんを知っているのに、教えてもらえないようだ。横にいたゆうこさん「私なんてデイズニードに行つたとき、突然暗いうちに起こされて行つたんだよ。教えとくと風邪ひくから内緒にしたんだって。」

日々子どもの顔を見て子どもと話し、「こどもごころ」の発露を目の当たりにできる私たちの仕事は、なんと幸せな仕事なのでしょう。定年が近づいてきたせいなのか、最近はずいぶん可愛さばかりが濾し取られて印象に残るようになりました。いいやら悪いやら……

(坂井小学校)



特集 ◆平成二十七年 度 東 筑 摩 塩 尻 教 育 会 総 集 会

会 員 発 表

子どもたちから教えてもらったこと

それぞれの子の「困り感」を知り、支援することはどの子にも有効な支援となる

永原 美香

〈はじめに〉

木曾檜川小学校に赴任する前の学校訪問で、担任予定の五年生の中に、特別な支援を必要としている子が複数いること、学級全体が先生の指示を聞きにくい状態にあることを校長先生から聞いていました。始業式の担任紹介でクラスの前に立つと、子どもたちはきらきらした目で私を見つめました。しかし、教室に入ると少し長い話を始めると、しゃべりだす子や下を向く子、授業中に離席する子と全体に落ち着かない雰囲気でした。一番悲しかったのは、「学校が嫌い。」という子が多かったことです。でもその一方で、積極的に発言したり質問をしたりと、学ぶ意欲の高さがあることも感じました。そんなよさを持っている子どもたちなのに、「なぜ学校が嫌いなのか。」「なぜ離席をしようのか。」「なぜ私語を続けるのか。」を考えてきた結果、「困り感」を持つていることに気づきました。

一人ひとりの「困り感」を知り、その支援を考えていくことが、この子たちのためにできることではないかと思いました。一、「困った子」ではなく「困っている子」だ

子どもたちと出会って、一週間も経たないときに、Aさんに「永原先生のせいで学校が楽しくない。」と言われました。Aさんは授業中気になることがあると席を離れ、窓際を外を見たり、関係のない本を読んだりしていました。私が「席に着きなさい。」と注意すると大抵「なんで。」という言葉を返してきました。どこか反抗的な目です。少し大きな声で「授業中だからです。」と言うと、Aさんは机に伏せ寝るような格好をとってしまいました。そのようなやり取りが続いていたので、「永原先生のせいで学校が楽しくない。」という言葉につながったのだと思います。

Aさんは四年生のときに、特別な支援が必要だとカウンセラーや医師に言われていました。Aさんの困っていることを理解していなかったもので、私はどこかでAさんを「困った子」と思っていました。一昨年の十年研修で、「学校のユニバーサルデザイン化」を学ぶ機会があり、特別な支援を必要とする子どもの「困り感」についての講義を受けました。「あいまいな状況に耐えられない」「空白の時間が苦手」「言葉通りにしか受け取れない」などの内容です。講師の先生は「学

校は子どもたちにとって毎日新しいことを学ぶ場で、学校自体が特別な支援を必要とする子どもたちにとっては一つの困難である。」ということをお話されました。もしかしたら、Aさんは学校生活自体をとて大変に感じ、それでも必死にがんばっているのかなと考えました。

れました。Aさんは問題を解くのがとてもはやく、することがなくなるときのために「おかわりプリント」を用意しました。すると、徐々に離席が減り、六年生ではほとんど離席しなくなりました。他の子どもたちも授業中の私語が減り、集中して取り組めるようになりました。

二、否定的な言葉は避ける
Aさんは否定的な言葉に強く反応し、反抗的な言葉を言ったり、行動をとったりすることが分かりました。そこで、「○しなさい。」ではなく、「○○してほしい。」という言い方を心がけました。トランプが起きたときは、「相手の立場に立って。」などという言い方から、「先生だったとしても辛いから、もうしないでください。」という「Iメッセージ」を伝えるように心がけました。それでもなかなか行動は変わりませんでした。どうしても私の口から出そうになるのは「○はやめなさい。」という注意の言葉でした。しかし、今必要なのは、否定的な言葉ではないと自分に言い聞かせ、好ましくないことにはできるだけ反応を示さないようにしました。Aさんが行動をかえてくれたその時は、「席についてくれてありがとう。」と即座に言葉を掛けるよう心がけました。

四、〇付け法を実施する
やってみると案外できるのに、動き出すまでに時間のかかる子がいました。そんな子どもたちの「困り感」解消のために、〇付け法を参考になるべく多くの子どもたちを評価できるよう工夫しました。教室の端から端まで順番に〇を付けますが、一人にかける時間は十秒くらいにします。×はつけません。

三、授業の始めに一時間の流れを提示する
Aさんの「あいまいな状況に耐えられない」「空白の時間が苦手」という「困り感」を解消するために、授業の始めに一時間の流れをあらかじめ紙に書き提示しました。すると、「今日の授業はなかなか早く終わったな。」という言葉が聞か

Dさんに「ここまであっていいよ。」と言って、〇を付け、他の子どもたちを見てから、もう一度Dさんのところへ戻ると、自分で考えて正解していました。私は、もう一度その答えに〇をしました。全体の場で答えを確認するとき、Dさんはまっすぐ手を上げ、発言してくれました。自分で考えて正解したという自信が、発言するエネルギーとなったのだと思います。

五、支援員の先生やコーディネーターの先生や他の先生方と連携する
クラスにいて下さる支援員の先生は、隙間時間が苦手なAさんの話し相手をし



たり、言語理解に困難のあるBさんのためにノートに補足の説明をしたりしていました。他の子どもたちも支援員の先生が寄り添ってくれるとても柔らかい表情になりました。しかし、支援員の先生は子どもたちに「それはおかしいと思う。」と、きつぱりと伝えることもあります。また、がんばっている姿を見つけると満面の笑みで心から褒めています。子どもたちへの対応を学びました。

さらに、「困り感」を持つ子どもたちへの支援会議も行いました。学習面で困り感を持つ子どもに対応するために、クラスを三つに分けて、教頭先生、コーディネーター、担任で少人数学習を実施したこともありました。校長先生もクラスの子どもたちを気にかけてくださり、話し相手になったり遊んだりしてくださいました。

多くの先生が子どもたちに関わってくださったことで、子どもたちにできることを考えることができました。

六、子どもたちの願いを大切に

私は「学校が嫌い。」という言葉をとんでも悲しく、空しく思っていました。なぜなら、学校は子どもたちのためであるからです。一人ひとりの成長を実感していくことが、私たち教師がいる意味であると思います。私は、子どもたちの願いを大切にしたいと思い、総合的な学習の時間での取り組みを大事にしてみました。

木曾榎川小学校では、地域の伝統工芸である木曾漆器の制作を三年生から行っています。伝統工芸士さんに来ていただき、漆の塗り方を習います。六年生はそ



の集大成として、「漆器祭り」で自分たちが漆を塗った漆器を販売する活動を行います。昨年度も漆器をたくさんの方に買っていました。

「漆器祭り」を終え、子どもたちから収入の一部で何かをしたいという意見が出ました。私はチャンスだと思いました。みんなで何をするか話し合いました。「飯ごう炊さんをしたい。」という意見があり、子どもたちはその意見に賛成しました。

この活動は、どの子ども自分で考え、行動し、満足感を味わえる活動となりました。

〈おわりに〉

六年生の二期の終わりに、「今年を表す漢字一字」を書いてもらいました。「永原先生のせいで学校が楽しくない。」と言っていたAさんは、「絆」という字を書きました。「クラスみんなが仲が良かったから。」という理由からでした。とても嬉しく思いました。しかし、Aさんは相変わらず「学校が嫌い。」と言っていました。それはとても悲しいことでしたが、Aさんの包み隠さない気持ちを大切にしなければと思いました。

子どもたちの困り感が分かり、それに対する支援を考えられるようになってきた頃、子どもたちに「先生よく笑って

るね。」「先生嬉しそうだね。」と言われました。私が楽しそうにしていると子どもたちも安心するのか、さらにちよっかいを出してきました。きつと、私が子どもたちを見ていいるのと同様かそれ以上に、子どもたちは私のことを楽しんでほしい。「私も私たちがいることを楽しんでほしい。」と思っていたのかもしれない。二年間、子どもたちに何をしてあげられたかは分からないけれど、子どもたちからは、たくさんのお話を教えてもらいました。

(木曾榎川小学校)

会員の感想

— 荒川祐二さんの

講演を聞いて—

萩原 美雪

教育会の総集会では、教科等研究会の発足会に会員の方の実践発表等と、大切な集まりや勉強になる内容がありますが私が楽しみにしているのは、各界の著名な方の講演会です。昨年度は立川流の落語家の方に「落語家と教師は『人間関係を築いていく』という点で繋がっている。」という興味深い講演をしていただきました。今年度は、どんな方の講演かと期待していましたので、その感想等を書きたいと思います。

招待員「荒川祐二」という作家を今まで存じていませんでしたから、事前のチラシを読み、そこに書かれてあった生年

月日、一九八六年生まれということにまずは驚き、彼の行った活動の経歴に興味を持ちました。

「毎日がつまらない。面白くないのは世の中のせいだ。」と思いつつ、でも心の底では「笑顔で過ごしたい。自分を変えたい。」と考えていた荒川さんが、一本の映画をきっかけに、一人で始めた新宿東口のゴミ拾い。その活動を続けることで、「幸せに気づき感謝する力が付いた。」と話されました。また、今の若者達に「諦めないでほしい。自分もこんなもんだなんて決めず、自分の力で、自分や周りを変えられることを知ってほしい。」更に、「自分を信じ、踏み出す一步の勇気を持って一緒に歩いて行こう。」と熱く語られました。夢や目標を探し求めることの大切さが伝わり、今どきの若者にもこんな人が居たらだと、驚きと同時に希望を持つことができました。

荒川さんの続けた「ゴミ拾い」の活動はたくさんの方に支えられながら、大きく広がっていき、自称「元ダメ男」がたった一人で始めた活動が、現在では環境省との官民一体のプロジェクト「GOMIプロジェクト」プロジェクトへと進化していったこと、その流れの凄さには別の意味で驚きを感じました。

世の中は、彼が行なったような、分かりやすく、共



感できる表現の発信を待ち望んでいたの
でしょう。

新宿東口はきれいになったそうです。
今後、継続していつてほしいと願うと共
に、本当の意味での大人になった荒川さ
んが、これからどのような活動を進めて
いくのかを、見ていきたい思いがしまし
た。
(片丘小学校)

東筑摩塩尻教育会 総集会感想

高木 彩子

総集會に参加し、はじめに、開會音楽
の合唱が響く素敵な雰囲気圧倒されま
した。

會員発表の永原先生のお話は、大変勉
強になるお話でした。以前、永原先生が
担任されていた学級を參觀させていた
だいたことがありました。集中して学習し
ている姿や、学級の子どもたちと先生と
のふれ合いを見て温かい雰囲気を感じま
した。また、先生が授業のために大変な
ご準備をされていること、ひとりひとり
を深く理解されていることを感じ、私も
先生のような教師になりたいという想
いを持ちました。今回、先生の実践につ
いてより詳しくお話を聴く機会に恵まれ、
とても嬉しく思いました。お話の中から、
先生も様々な面で悩まれていたことを知
り、正直驚きました。先生のお話の中
で感じたことは、日頃当たり前だと思っ
ていることや、こうに違いないと決めつ
けてしまっていることでも、ひとつひとつ
丁寧に見直すことで、子どもたちに寄



添った指導がで
きるということ
です。できて当
たり前、やらな
いのはやる気が
無いからだ、つ
いそのように考
えがちですが、

自分の尺度で決めつけていては、子ども
たちに対する理解を深めていくことはで
きないと改めて感じました。私も、先生
の児童理解に対する熱心さを見習って今
後の指導に生かしていきたいです。

講演会では、荒川祐二先生のお話をお
聴きました。「自分を変えたい」とい
う想いを持つてから、現在に至るまでの
お話をおもしろく楽しく、時にまじめに
話してください、どんどん話に聴き入っ
てしまいました。先生がおっしゃって
いた「自分のことが嫌い」という言葉は、
程度の差はありますが、誰もが持つて
いる感情なのではないかと思えます。特
に、人と比べて「自分は何てだめなの
だろう。」と落ち込む経験は私にもあり
ます。でも、私の場合はそのことから目
を背けて、あまり考えないようにしてい
ます。

「自分が嫌い」という感情としっかりと
向き合い、本気で変わろうとしたこと
が荒川さんの強さではないかと思いま
した。楽しいお話の中から、一歩を踏み
出すことの大切さ、そして、それは今
からでも遅くないという大きなメッ
セージをいただきました。このことを
毎日接している子どもたちに少し
でも伝えられたらと思います。

最後は「信濃の国」の大合唱で幕を閉

じました。大変有意義な一日となり
ました。大会開催に向け、準備等ご
尽力いただいた先生方、ご講演くだ
さった先生方、本当にありがとうございます。
(塩尻東小学校)

東筑摩塩尻教育会総集 会感想

川上 麗子

開會音楽、会長挨拶、来賓祝辞に
続き、木曾榎川小学校永原美香会
員による「子どもたちから教
えてもらったこと」それぞれの
子の「困り感」を知り支援す
ることは、どの子にも有効であ
るの発表が行われた。永原会
員は五年生を受け持たれた時、
学級全体が先生の指示を聞き
にくいと感じ、それについて考
える中で、先生が「困った子」
と感じる子は、実は「困って
いる子」であり、その子の困
りに寄り添うことを考えて実
践を重ねていかれた。困り感
を持つている子は「暖かな状
況や空白が苦手」ととらえ、
次のような点に留意して指導
を続けてきたという。①否定
的な言葉を避け、〇〇して
欲しいという「私メッセージ」
で伝えること。②一時間の流
れを提示すること。③どの子
にもわかる学習問題を提示す
ること。④〇付け法を実施し、
きめ細かなチェックをして自
信をつけること。⑤要に応じて
デジタル教科書や実物投影機、
実物模型などを使って視覚支
援をすること。⑥支援員やコ
ーディネーターの先生と連携
すること。⑦子ども達の願
いを大切に、総合的な学習の
時間には漆器祭りでの販売活
動や飯盒炊さんなど自分た

ちで自分たちの願いを達成する活動
をしたこと。それらを実践して
いく中で絆が強まり、学級の
まとまりが出てきて、「先生
にも私たちといることを
楽しんで欲しい」とい
うような子どももさ
え出てきたという
発表であった。子
どもの困り感を
一つ一つ冷静にとら
え、その対応策を
具体的に考えて焦
ることなく足下
を見つめて実践
され、すばらしい
と思った。

次に、招待員の荒川祐二氏による
講演「二歩を踏み出す勇気」が
行われた。大
学時代に自分
自身が嫌いだ
った荒川さん
は、「自分を変
えたい」「何
か自分が自
分を誇りに思
えるようなこ
とをしたい」と、
たった一人で
新宿東口のゴ
ミ拾いをする
荒川さんに向
けられた周囲
の嫌がらせは
半端なもの
ではなかった。
それでも兄
との約束で一
ヶ月間続け、
止めようと思
ったときに、
一緒にやっ
てくれるホ
ームレスのお
じさんが現
れ、次々に輪
が広がって
いった。そ
して、二〇一
三年には、
環境省を巻
き込んだ「
SDGプロジェクト」
として、世
界三百万人
以上、十五
万三千人の
全世界ムー
ブメントに
なっていた。
日常生活
の中で「自
分はこんな
ものだ」と
思ってしまう
、行動する
前に諦めて
しまうこと
は私にも多
くある。「小
さな一歩が
どんなに小
さくても、そ



が積み重なって大きな道になっている。「自分の人生を変えるのは自分しかない」「自分を信じて生きていこう」という荒川さんの言葉を信じて、小さな一歩を踏み出していきたい。自分は人生で何を一番したいのかを考えていきたい。

(広丘小学校)

平成二十七年年度

塩筑教育会組織

役員

- 会長 塩原 義郎(坂井小)
- 副会長 田中 公男(筑北小)
- 理事 横山 義雄(事務局長)
- 福山眞太郎
- 二茅 芳郎
- 小坂 幸恵(書記)
- 森泉 雄二(桔梗小)
- 中島 文字
- 常任委員長 高山 雪(両小野中)
- 副委員長 赤津 勝広(宗賀小)
- 常任委員 両角 啓子(洗馬小)
- 澤柳 秀子(生坂小)
- 横山 卓朗(塩尻東小)
- 小澤 智子(麻績小)
- 三澤 正彦(広丘小)
- 代議員会 議長 小河 保宣(桔梗小)
- 副議長 小坂 寿樹(両小野中)
- 古畑富美江 中野 邦彦 佐藤みち子
- 本木 善子 小河 保宣 保坂 尚貴
- 手塚 俊彦 田村 秀則 安江 克也
- 武井 俊之 上條 勝利 山壽 公子
- 龍野 守 小澤 英明 滝沢 聖二
- 内川さつき 望月 秀明 中澤 真知

本年度事業計画

一 各種研究委員会の推進について

1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩尻教育会の目的である「会員相互の研鑽により、職能の向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点をふまえて進めていく。

- 1) 研究や実践、ならびにそれらの情報収集・交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。
- 2) 塩筑教育の課題を解決するため、できるだけ会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。
- 3) 塩筑教育の進展を期するため、会員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をやる。

2 研究主題および委員名

◎ 世話係 ○ 委員長

課題追求部

小中連携(塩尻1)

小中学校での学習面、生活面での指導のあり方について連携を深める。

- ◎小林正幸(片丘小) ○刈間雅代(吉田小)
- 大和明美(桔梗小) 原 貴志(広丘小)
- 手塚俊彦(片丘小) 倉橋幸雄(丘中)
- 小林 真(広陵中)

小中連携(塩尻2)

小中学校での学習・生活指導のあり方と中学校生活へのスムーズな移行のための手立てはどうあったらよいか。

- ◎横山卓郎(塩尻東小) ○米窪治紀(槽川中)
- 小澤英明(木曾槽川小) 内貴良宏(塩尻東小)
- 龍野 守(洗馬小) 市川晃一(塩尻西小)
- 小柳津由紀(宗賀小) 村川和洋(塩尻中)
- 保科秀明(塩尻西部中) 小坂寿樹(両小野中)

小中連携(中央)

中学校への期待感を高める小中連携はどうあったらよいか。中一ギャップを越えていく。

- ◎田野口さつき(朝日小) ○宮澤 研(朝日小)
- 齊藤博正(山形小)

小中連携(北部)

小中の学習面、生活面での指導のあり方についての連携を深める。

- ◎小沢智子(麻績小) ○待井 明(筑北小)
- 森田 茂(坂井小) 中澤真知(生坂小)
- 吉江哲也(麻績小) 桑原 清(筑北中)
- 木船 威(生坂中) 仲 弘久(聖南中)

学力検討

現在の塩筑の児童・生徒の学力の状態はどうなっているか。

- ◎大和田康子(吉田小) ○高梨秀隆(聖南中)
- 中島 洋(丘中) 大池あゆみ(広丘小)
- 小口往子(西部中) 太田喜博(筑北小)

専門部

道徳教育委員会

今までの経験や体験を自分の言葉を大切にしながら伝え合い、友と関わる中で道徳的価値を深めていく道徳のあり方

- ◎田畑卓朗(丘中) ○渡邊千鶴子(筑北中)
- 宮内利浩(吉田小) 北原美枝(片丘小)
- 塩原 篤(桔梗小) 楠田美由紀(塩尻中)
- 可知貴彦(丘中) 津田 守(朝日小)

作品展運営部

書道展委員会

児童・生徒の書写力・鑑賞力を高め指導者の資質の向上を図るための県展の審査および巡回書道展の企画運営

- ◎塩原義郎(坂井小) ○浅野敦子(桔梗小)
- 木村秀子(吉田小) 笹川美佐子(広陵中)
- 清水朋子(朝日小) 二木崇夫(生坂中)

科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成

- ◎赤羽高志(木曾槽川小) ○倉科ゆり(塩尻西小)
- 安達 薫(吉田小) 新谷俊博(両小野中)
- 北澤秀憲(山形小) 塚原章治(坂井小)

美術展委員会

各校の児童・生徒作品の研究を通して、児童・生徒の表現に対する理解を深める。巡回展を通して多くの児童生徒が様々な作品と身近に接し美的感覚を高めることに資する。

- ◎村上 啓(塩尻中) ○太田浩介(生坂中)
- 北村知香(宗賀小) 松村弘文(桔梗小)
- 塩原俊郎(広陵中) 市川忠宏(山形小)

読書感想文委員会

児童生徒が、読書の楽しさを感得できるような読書感想文の書き方の指導はどうあったらよいか。

- ◎赤津勝広(宗賀小) ○手塚香子(洗馬小)
- 古畑富美江(塩尻東小) 笠原佳子(広陵中)
- 井出宏幸(槽川中) 白井明子(生坂小)

事業部

会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行。

◎両角啓子(洗馬小) ○百瀬みさ子(宗賀小)

藤澤佳子(広丘小) 下沢孝司(塩尻中)

横山貴士(丘中) 小原妙子(山形小)

松本直美(麻績小) 関山菜穂(筑北小)

資料室委員会

教育会所蔵資料の整理・目録づくりと寄贈図書

◎澤柳秀子(生坂小) ○森 信幸(塩尻東小)

横山久雄(木曾榑川小) 飯田大輔(塩尻中)

高志由香里(塩尻西小)

情報ネット委員会

教育会ホームページコンテンツの検討および構築。

◎櫻井隆夫(塩尻西部中) ○龍野 守(洗馬小)

児玉充司(西部中) 小池 明(広丘小)

二 県外視察・自主研究

◎小谷拓実(塩尻西小学校)

筑波大学附属小学校

◎相馬一成(宗賀小学校)

和歌山大学附属小学校

◎井沢千浩(木曾榑川中学校)

奈良国立博物館および新館

◎松本直美(麻績小学校)

奈良教育大学附属小学校

◎堀田茂樹(塩尻中学校)

全国学校体育研究大会広島大会

自主研究(信濃教育会「教育論文・教育実践賞」)

塩筑教育会からも研究補助(奨励金)が

出ますので、ご応募ください。

三 助成事業

教材等研究会

国 語

◎田中公男 ○北野里美

・夏期研修会への参加

・長野県国語研究協議会への参加

・学会誌「信州国語教育」87号「会報」

77号の発行 ・授業研究会

・作品研究会

・会員の要望に応じた活動 等

社 会

◎櫻井隆夫 ○小坂寿樹

・定期総会 ・夏期研修会 ・講演会

・研究の推進 ・実証授業

・信州社会科学教育研究会・塩筑支部としての活動 等

算数・数学

◎工藤敬司 ○中島 洋

・教育研究会総会 ・授業研究会

・読み合わせと学習指導の研究

・第49回中信地区算数数学教育研究大会参加 等

理 科

◎赤羽高志 ○宮崎みつ枝

・授業研究委員会 ・実験講習委員会

・研修委員会 ・会報委員会

・HP運営委員会 等

音 楽

◎高山 雪 ○百瀬玲子

・東筑摩塩尻教育会定期総集会の合唱発表

・実技講習会(合唱・楽器)

・授業参観・講演会等の呼びかけ、案内 等

図工・美術

◎村上 啓 ○川船 賢

・「長野県児童生徒美術展」・「信州子ども

絵画百年館」・「花やみどりのある絵」

審査

・「郡展(巡回展)」審査及び作品研究会

・第69回長野県美術教育研究大会

・公開授業・授業研究会等への参加

・松塩筑美術研究会会員作品展

・立体系ト展への協力

・先輩の先生方と語る会

・「塩筑教育」のカット作成協力

・「県美術教育研究会会報」への寄稿 等

体 育

◎森泉雄二 ○市川晃一

・第56回体育学習研究会参加

・五郡市共催体育学習夏期研究会参加

・第56回長野県学校体育研究大会参加

・五郡市共催体育学習研究会・講演会参加

・塩筑授業研究会の案内

・体育学習研究 等

技術・家庭

◎田畑卓朗 ○大槻裕司

・技術・家庭科教育研究大会への参加 等

英 語

◎市河 泉 ○宮原 舞

・英語教育研究会

・小学校英語活動研修会 等

道 徳

◎田野口さつき ○手塚俊彦

・授業参観・授業研究会

・松本市道徳教育研究会夏期研修会

・長野県道徳教育研究会大会参加 等

特活(学級作り)

◎横山卓朗 ○児玉貴久子

・研究会等

哲学研究会(「コスモスの会」)

◎高坂 徹 ○塩原いずみ

・信教生涯学習講座「哲学の道」研修会

・松本哲学同好会との合同読み合わせ会 等

文化財

◎久保田英雄 ○松井秀文

・臨地研修会 等

書写書道

◎塩原義郎 ○宮下広雄

・県児童生徒美術展「習字の部」審査

・長野県書写書道研究大会への参加

・「塩筑教育」(会誌)での誌上作品展 等

学校園

◎三澤正彦 ○北澤秀憲

・野菜農家の見学 等

保 健

◎両角啓子 ○須山尚美

・講師を迎え、実験や演習を兼ねた研修

会の開催 等

カウンセリング

◎澤柳秀子 ○荻原美雪

・児童・生徒理解の基礎と教育相談研修

研究会・研修会 等

情報教育

◎赤津勝広 ○下平良洋

・研修会 等

総合的な学習の時間・生活

◎小沢智子 ○金井亜希

・県総合生活研究会夏期研修会

・総合生活研究会県大会 等

発達障害支援教育

◎大和田康子 ○松本詩子

・講演会の実施 ・事例検討会 等

◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

一学期も残りわずかになりました。

今年度も、会報を一、二学期に二回、

会誌を年度末に発行する予定です。

本年度も会報を通し、会員の皆様の

相互理解を深められるような編集を

目指してまいりたいと思います。

お忙しい中、ご寄稿くださいました

皆様に深く感謝申し上げます。ありが

とございました。

